

授業概要

留学生対象のクラス（全4回の第1回）。人間文化学科に所属する5人の教員が「日本語・日本事情」をテーマに、それぞれの専門分野（古典文学、メディア、言語、近現代史、古代・中世史）に即して留学生向けに講義する。日本文化の理解を深めたい留学生も、日本語の力を養いたい留学生も、ぜひ履修してほしい。

授業計画

第1回	松浦 ガイダンス、新語・流行語
第2回	松浦 (1) アカデミック・ライティングにおける日本語—学術論文に役立つ日本語表現—
第3回	越野 (1) 古代東アジアと日本文学の成長
第4回	越野 (2) 現代語で読む古典文学（源氏物語）
第5回	松浦 (2) 世界の言語からみた日本語—外国語としての日本語—
第6回	柴台 (1) 日本の音楽文化②—愛唱歌としての「翼をください」—
第7回	柴台 (2) 日本の音楽文化③—アニメと音楽—
第8回	松浦 (3) 日本語の待遇表現—人間関係からみた日本語の言語意識—
第9回	松浦 (4) 日本語の語用論—日本語の運用を考える—
第10回	福島 (1) 日本人の行動・思考様式①
第11回	福島 (2) 日本人の行動・思考様式②
第12回	松浦 (5) 日本語の意味論—日本語の意味拡張を探る—
第13回	井上 (1) 日本史を「みる」①
第14回	井上 (2) 日本史を「みる」②
第15回	松浦 (6) まとめ
第16回	レポート試験

到達目標

日本文化を理解するのに必要な日本語の「読む」「書く」「話す」「聞く」能力を身につけることができる。日本文化（歴史、文学、言語、メディア）について幅広く関心を持ち基本的なことについて理解することができる。

履修上の注意

留学生対象のクラスである。授業に積極的に参加し、遅刻や欠席をしないようにすること。担当者ごとに20点満点で採点するので、全7回の担当者なら1回3点弱相当、全2回の担当者なら1回10点相当の価値があるという計算になるため注意すること。

予習・復習

シラバスに記載されたキーワードについて調べておくことが予習になる。また、各担当者の指示に従って課題を提出したりすることが復習になる。

評価方法

5人の担当者がそれぞれの担当回で評価し（20点満点）、それらを単純に合計して全体評価とする。評価する項目は、授業態度、課題、レポート課題などがあるが、担当者によって異なる。期末筆記試験は実施しない。レポート課題が課される場合、担当者ごとに提出の方法や期限について指示する。

テキスト

統一テキストは使用しない。教材は各担当者が授業内で配付する。